

タテ・ヨコ・ナナメ

大阪ガス(株)
エネルギー・
文化研究所 所長

木全 吉彦

Kimata Yoshihiko

Culture,
Energy
&
Life

CEL

Volume 106 March 2014

特集／ソーシャルって何?
平成26(2014)年3月1日発行
頒価／1,000円(送料別途)

発行

大阪ガス(株)
エネルギー・
文化研究所(CEL)
〒541-0046
大阪府大阪市中央区
平野町4-1-2

発行人

木全吉彦

企画・制作

豊田尚吾

編集人

西田裕一

編集

(株)平凡社

Art Director

岡本一宣

Design

岡本一宣デザイン事務所

校正

(株)アンデパンダン

DTP制作

(有)ダイワコムズ

印刷・製本

(株)東京印書館

お問い合わせ窓口

大阪ガスビジネス

クリエイト(株)

TEL 06-6205-4650

FAX 06-6205-4759

CEL@ogbc.co.jp

Research Institute for
Culture, Energy and Life
©2014 OSAKA GAS CO., LTD

※禁無断転載複製※本誌掲載の寄稿文、インタビュー、レポートなどの内容は必ずしも大阪ガスの見解を表すものではありません。本誌・バックナンバーのコンテンツやエネルギー文化研究所(CEL)の活動内容は、インターネットホームページでご覧いただけます。

<http://www.osakagas.co.jp/compact/eflforiscel/>

情報通信技術が発達し、フラット化の進む現代社会では、横のつながりの価値が強調されます。最近よく耳にする“ソーシャル”も、メディアやネットワークなど多くはその文脈で用いられますが、日本語で“社会”というときにはタテ・ヨコ・ナナメの関係が複雑に入り組んだ立体構造が思い起こされます。

そこでは親と子、夫と妻、上司と部下、先輩と後輩、友人・親戚・近所付き合いなど、さまざまな人間関係が、遠近・軽重、濃淡・繁閑とり混ぜ、縦横無尽に形成されています。さらに歴史や古典を通じた過去との対話などの時間軸を加えれば、4次元空間とも言えそうな「内にある社会」(大坊氏：22頁)で、有史以来、人はさまざまな関係に“多元的に帰属”(濱野氏：12頁)してきました。

異なる生い立ちや経験、価値観を持つ人々が、好むと好まざるとに拘わらずに出会い、互いに主張し、理解し、反発し、折れ合いながらつづってきた関係が“社会”。その中で優先順位をつけ、うまくバランスを取りながら知識・知恵を身につけ、自身の立ち位置を確立していくことが人間の成長・成熟ではないでしょうか。

この基本構造の上に、時間と空間の壁を軽々と飛び越えて拡がるのが、広大な“開”空間=インターネットです。これまでマスメディアのフィルターを通してしか知り得なかった情報にふれ、知り合う術のなかった人と出会い、交わり、助け・助けられるようになったのはすばらしいことです。

しかし、今を盛りの“ソーシャル”メディア、ネットワーク、ゲームなどの“つながり”は、広く、浅く、ヨコ方向にのみ猛烈なスピードで形成される“閉”空間となつて、タテやナナメの関係を圧迫し始めているようにも見えます。

“ソーシャル”が“社会”を駆逐することなく相互に補完し合うよう、そして4次元の基本構造の中でさまざまな関係を結び、“社会”人として自らを確立する途上にある若者たちが、グローバルな“開”空間であるはずのインターネット上の一部サービスに囚われ、基礎を固めることなく柱を立てようとして躓かないよう、私たち“社会”人の果たすべき責任は重いと考えます。